

天文学とプラネタリウム 第12回

ATP製品版は順次出荷中。そのうちご近所の科学館でも!?

天プラ企画書 on 星ナビ

- 天文マイレージ -



高梨直継 (東大M2/天文学教育研究センター所属) 平松正顕 (東大M2/国立天文台ALMA推進室所属)

●企画概要●

天文業界共通のマイレージシステムを提案する。各地の観望会やプラネタリウムなどでマイルを貯め、それに応じて様々な特典が得られる、という仕組み。

1. マイレージカード

皆さんはマイレージカードをお持ちですか? 飛行機で飛んだ距離に応じてマイルが貯まり、貯まったマイルでいろいろな特典が得られる、というものです。最近では飛行機以外でも買い物をしたりタクシーに乗ったりしてもマイルを貯めることができるようです。世界各地に観測に行く天文の大学院生も、マイレージカードを持っている人が多いようです。たとえば地球の裏側: チリに1往復すると24,000マイルも獲得できてしまうのです。使うほどオトクになるこの種のポイントカードは、他にも色々なものが利用されていますね。では、同じようなものが天文の世界にもあったらどうだろう? と考えてみました。今回のコラムでは、天文マイレージカードについてのアイデアをご紹介します。

2. 全国共通AUカード

天文の世界のマイレージカードですから、単位がマイルではスケールが小さすぎます。天文の単位といえば、そのものずばり天文単位 (Astronomical Unit: AU) でしょう。これは地球と太陽の間の距離を基準にした単位で、1AUは約1億5000万kmに相当します。そしてもちろんカード本体には、きれいな天体写真をプリントしておきます。星ナビ2004年12月号のこのコラムでも紹介した『天文カード構想』と一体化

することも可能でしょう。

AUの貯め方は簡単。携帯する公開天文台や科学館などに行き、観望会やプラネタリウム、天文講演会などに参加するとAUがもらえる、というわけです。見るのが難しい天体(彗星や淡い星雲など)を見た時や、ちょっと難しめの講演会を聞いた時などにはボーナスAUを進呈したりしてもいいでしょう。そうやって集めたAUを使って、例えばプラネタリウム入場料が割引引かれたり、オリジナルグッズがもらえたり、もっと貯めるとパーセクカードにレベルアップしてさらに特典が大きくなってしたら楽しそうです。ちなみにパーセクも距離の単位で、1パーセクは3.26光年、約20万AUに相当します。

3. AUカード実現に向けて

どうでしょう、全国共通AUカード。もちろんここまで書いたことは構想段階ですので、いま観望会に参加してもAUはもらえません。実現するには各地の科学館・プラネタリウムの協力と、参加者のAUを管理する組織が必要です。まずはどこかで試験的に導入して、成功したら順次規模を拡大していきたいと思いますが、これをお読みの皆様、いかがでしょうか?



AUカードのデザイン例。こういうカードをサイフに忍ばせておくのも楽しみの一つです。ここでは土星の画像を使っていますが、様々な種類の天体画像をプリントしたいですね。



ATP発送作業中の高梨(左)と平松(右)。高梨は実験の、平松は次年度の観測提案策定の合間を縫っての作業です。ATP販売計画順次進行中。